

井之頭コラム

戦争の傷あと



《見えない風景》

井の頭池の東側は神田川の源流になっています。江戸時代の初め、江戸城と町への水道として「神田上水」(現・神田川)が開発され、近代水道設備ができる1898(明治31)年まで活躍しました。1882(明治15)年池の周囲では地中の水を貯えるために杉が植林されました。

第二次世界大戦中の1944(昭和19)年「中島飛行機武蔵製作所」の空襲で数多くの犠牲者がでました。亡くなった人々のお棺を作るために公園の杉1500本を切り、「お茶の水」の近くに木工場を建て、その場で製品にしていました。

戦後、池の周囲には桜、公園内に多様な木が植えられ、今の風景、雑木林に至っています。



井の頭公園西側に広がる雑木林



《見える傷あと》

自然文化園本園に入り、突き当りの「むさしのハビタット」前に大きな赤松があります。高さ1mの所にハート型の傷があります。戦時中に軍用機の燃料が不足し、代用品の原料として赤松の松脂を採りました。終戦となり実際に使われることはありませんでした。その時の傷が、70年以上の年月をかけてこの大きさのハート型になりました。戦争の傷あとが、ハート型に成長したのは「平和」が成長したように思いませんか？

戦争の傷あと？平和の象徴？

参考図書

「武蔵野から伝える戦争体験記録集」

(平成21年度 武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会・武蔵野市)ロビーの本棚に置いてあります。是非お読みください。

ケヤキの子どもたち

長い間、御殿山コミセンを見守ってきてくれたケヤキの子孫たちが館内のあちらこちらに点在しているのをご存知でしょうか？コンクリートの建物の中、ケヤキにかわって、安らぎを与えてくれています。

部屋の表示板

さながらケヤキの子どもたち。設計事務所・市役所施設課・市民活動推進課が1枚ずつ文字デザイン、彫刻、塗装して生まれました。ケヤキの材は堅く彫りにくかったそうですが見たら出来栄の素晴らしさにビックリされると思います。落款は御殿山の「山」をデザインしたとのこと。「粋」なはからいですね。



切り株

ケヤキの孫のような存在。1階の中庭や2階のベランダ・吹き抜けに点在しています。



運営委員募集

地域のコミュニティづくりを一緒に行ってくださる運営委員を随時募集しています。

現在は窓口業務を行ってくださる運営委員も同時募集しています。

詳しくは窓口までお気軽にお問い合わせください。

